

## 第 81 回政策研究大学院大学経営協議会議事要旨

- 日 時 : 2020 年 7 月 28 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 56
- 場 所 : オンライン開催
- 出席者 :
  - 〔学外委員〕  
石田委員、今井委員、奥委員、嶋津委員、名取委員、長谷川委員、林(康)委員、  
板東委員、藪中委員
  - 〔学内委員〕  
田中学長、横道理事・副学長、増山理事・副学長、小島理事、木島副学長、高  
梨副学長、道下副学長、渡邊大学運営局長
  - 〔オブザーバー〕 宇佐美監事、林(礼)監事
- 欠席者 :
  - 〔学外委員〕 林(文)委員
  - 〔学内委員〕 なし

議事に先立ち、学長から、新たに委員となった木島副学長、黒澤副学長の紹介があり、  
両委員から、挨拶があった。

### I. 審議事項

#### 1. 2019 年度決算報告

大学運営局長から、2019 年度決算について、財務諸表（損益計算書）の概要、及び  
奨学寄附金受入状況等の説明があり、これを了承した。

#### 2. 平成 31 事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間(平成 28~31 事業年度) に係る業務の実績に関する報告書について

大学運営局長から、平成 31 事業年度に係る業務の実績及び第 3 期中期目標期間（平  
成 28~31 事業年度）に係る業務の実績に関する報告書の概要について説明があり、こ  
れを了承した。

◆主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- : 学生の多様性に係る KPI について、目標の 50 カ国を目指して努めてほしい。
- : 本学の自己評価が低いようである。他大学ではもっと積極的に自らの取組を評価し  
ているように思われる。他大学と本学の自己評価を分析、比較してはどうか。
- △: 次期中期目標・中期計画策定時にはご指摘の点も考慮しつつ、戦略的に作成してい  
きたい。
- : 留学生数の減は構造的な問題ではないか。減少の要因（留学先としての日本の魅力  
が減っているのか、奨学金の問題か等）を分析したほうがいいのではないか。  
また、多くの国からの留学生を受け入れるという KPI について、本学の目的は多く  
の国々の指導者の育成なので、国数が多いことに意義はあるが、もう少し重点的に受  
け入れていってもいいように思う。日本あるいは世界のために役に立つ留学生を受け  
入れる方法、効果的な方法を考えられるのではないか。
- △: 今年秋の留学生数については、奨学金枠を埋めることができ、改善の方向となる予  
定であった。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、辞退者等が生じてい  
るため、減少の見込みであり懸念している。
- : オンライン講義が中心となっている現状において、授業料の値下げの要望の動きが  
出てくる可能性がある。

△：指摘のとおり。オンライン講義でもキャンパスでの講義とほぼ同等の講義を行うと決意表明はしているものの、その可能性はある。本学の留学生の多くは、奨学金を受けているため、そのスポンサーが本学の講義をどう評価するかという課題が出てくる。

### 3. その他

特になし。

## II. 報告事項

### 1. 監事候補者の推薦について

横道理事から、監事候補者選考委員会において田代清和氏、林礼子氏を本学の次期監事候補者として決定し、文部科学省に推薦した旨の報告があった。

### 2. 科学研究費助成事業の採択状況について

木島副学長から、2020年度科学研究費助成事業の採択状況について報告があった。

### 3. 政策研究センター事業について

木島副学長から、政策研究センター事業の実施状況について報告があった。

◆主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：科学研究費や受託研究費の獲得は実績が上がっている。今後は、民間からの寄附の受入れについて推進し、さらに充実した研究ができるようにして欲しい。

△：重要かつ難しい課題。ぜひ助言、提言をいただきたい。

### 4. その他

特になし。

## III. 協議事項

### 1. 4月入学者の受入れ状況について

学長から、4月入学者の受入れ状況について報告があった。

◆主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

○：学生数の増加は、新たなプログラム創設等の効果である。今後、魅力ある講義の提供に努めていただきたい。

○：日本人学生に英語による講義を受講させる取り組みを続けてきている。オンライン講義になっていることでの影響はあるか。

△：個別には把握していないが、オンラインでも工夫して実施している。

○：オンライン講義の満足度が高いので驚いている。オンライン講義は、リアルタイムで行っているのか、録画の配信か。インターネット環境は十分整備されているか。

△：原則としてリアルタイムでインタラクティブな形で行っている。大学でのインターネット環境に加え、各教員、学生の自宅の環境も整っていたようである。

○：母国にいる留学生にオンラインで講義を提供する場合、時差の問題が生じ、非常に負担が多い。

△：これまでは日本に滞在している留学生を対象にオンライン講義を提供してきたので、それほどの問題は生じていない。少人数クラスが多いこと、教員のきめ細やかな指導が高評価につながったものと思われる。

- ：今後アフターコロナ、ビヨンドコロナ時代に、ICT 技術を活用し、新たなあり方を考えていく必要があると思われる。オンライン講義がうまく実施できると、地方にいなから夜間や休日にオンラインで参加したいというニーズも出てくるように思うが、将来展望はあるか。
- △：学内ではまだ議論できていない状況であるが、オンライン講義の積極的な活用は重要な課題であると思う。ただ、まずは10月以降の新入留学生への教育をしっかりと提供できるように努めていきたい。

## 2. 本学における新型コロナウイルス感染症への対応について

学長から、本学における新型コロナウイルス感染症への対応について報告があった。

◆主な意見は以下のとおり。(○：学外委員、△：本学)

- ：オンライン講義に対するアンケート調査の満足度は高いが、回答率が低く、不満を持っている学生は回答していない可能性もある。オンラインでのコミュニケーションには限界があるため、状況により対面講義の再開が望ましいように思う。
- △：貴重なご意見。学生の意見は引き続き調査していきたい。

議事終了後、学長から、8月末で任期満了となる宇佐美監事、7月末で退職となる大学運営局長への謝辞があり、両氏より挨拶があった。

以上